

取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。
また、本書は別紙「安全上のご注意」とあわせてご使用ください。

このたびは、当社製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

製品仕様

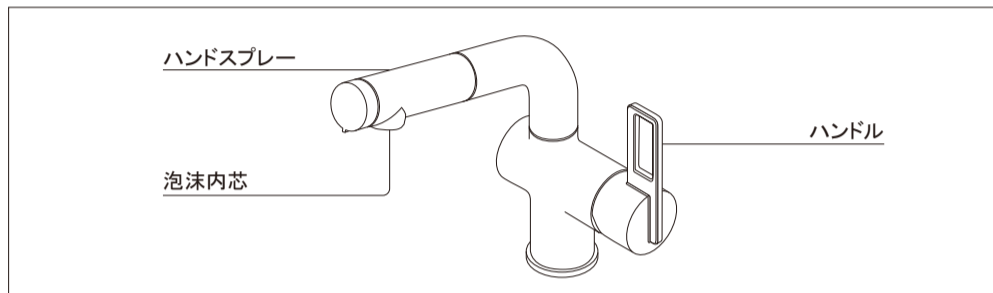
取付穴径	35~38ミリ
取付厚	5~35ミリ

製品同梱明細

施工前に、下記の同梱部材がそろっていることをご確認ください。

- 水栓本体 ●ジョイント金具・パッキン・クリップセット(各2個) ●水抜弁付きワンタッチソケット *寒冷地用製品のみ
- おもり ●六角レンチ(対辺2.5ミリ) ●取扱施工説明書 ●安全上のご注意 ●保証書

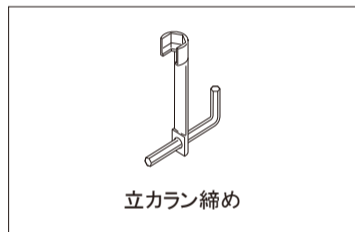
各部のなまえ



*品番によって図と製品の形状が一部異なります。

施工の前に

準備するもの

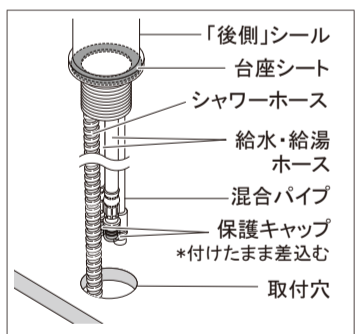


- *左記に加えて、
- モンキーレンチ
- プラスドライバー
- をご準備ください。
- *その他、施工に必要な配管部材等は別途ご準備ください。

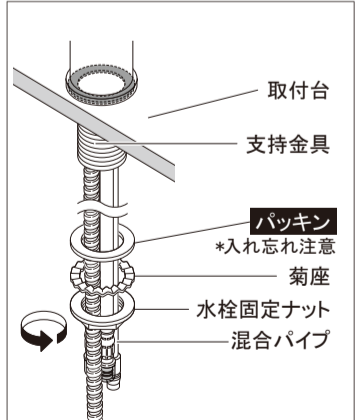
施工方法

数秒間水をし、配管内のゴミなどを洗い流してから、止水栓または元栓を閉じて取付作業を行ってください。

1. 水栓本体を取付けます。



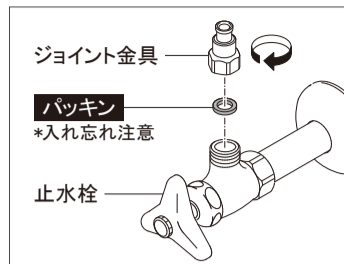
- ①水栓本体を設置する取付穴の穴径を確認し、穴周囲が汚れていないか確認します。
- ②支持金具から水栓固定ナット・菊座・パッキンを取外します。
*部品が別袋に入っている場合は、この作業は必要ありません。
- ③水栓本体底部に台座シートが付いていることを確認し、水栓本体が正面を向くように取付穴に差込みます。
*台座シートに剥離紙が付いている場合は剥がしてから取付穴に差込んでください。
*給水・給湯ホースの保護キャップはジョイント金具に接続するまで外さないでください。
*「後側」シールが貼付けられている場合は、そちら側を真後ろにします。
*水栓取付位置がシンク・洗面手洗器中央でない場合は、吐水口位置・回転角度に合わせて位置を決めてください。
- ④支持金具にパッキン・菊座を順に通し、水栓固定ナットを「立カラン締め」などでしっかりと締めて、水栓本体を確実に固定します。



- 水栓本体を固定した後に、位置を調節しないでください。無理な力が掛かり、器具の破損やゆるみの原因となります。
 - 水栓本体が取付穴の中心にくるように固定してください。偏って取付けると、確実に固定されない恐れがあります。
- 必ず実行
- 水栓本体を固定する際は、レバー・ハンドル部を持って締付けしないでください。カートリッジに無理な力が掛かり破損する恐れがあります。
- 禁止
- パッキンの入れ忘れにご注意ください。漏水の原因となります。
 - 水栓本体が正しく固定されていないと、ガタつきや取付台下のキャビネット・流し台内への漏水、部品損傷の原因となりますのでご注意ください。
- 注意

施工方法(つづき)

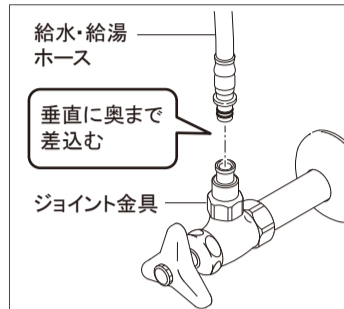
2. 止水栓と接続します。



- ①ジョイント金具にパッキンをはめ込み、止水栓にしっかりと締付けます。
- 注意
- パッキンの入れ忘れにご注意ください。漏水の原因となります。

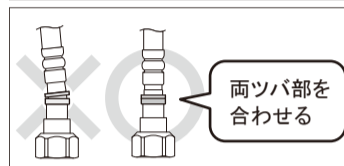


- ②給湯・給水ホース先端の保護キャップを外し、Oリングに傷がないか確認します。



- ③給水・給湯ホースをジョイント金具へ垂直に奥までしっかりと差込みます。

- 必ず実行
- 給水・給湯ホースをジョイント金具に差込む際は、Oリングを傷つけないように、垂直にゆっくりと差込んでください。
- 注意
- ホースの「湯(赤)・水(青)」シールを確認し、逆配管にならないように接続してください。



- ④給水・給湯ホースがジョイント金具に正しく差込まれているか確認します。



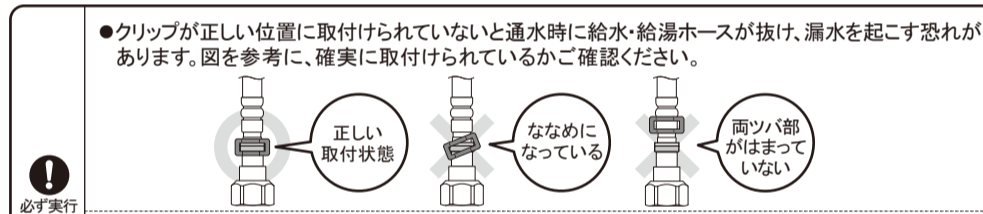
- ⑤クリップの溝に、両ツバ部(給水・給湯ホース側とジョイント金具側)が収まるようにクリップをはめ込みます。
- ⑥キャップをクリップに取付けます。

- 必ず実行
- クリップで手を切る恐れがありますので、固定後は必ずキャップを取付けてください。

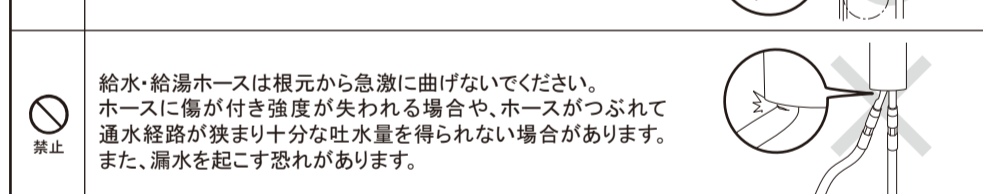


- ⑦給水・給湯ホースを上を引き、確実に接続されているか確認します。

- 注意
- 取付けが確実でないと漏水する恐れがありますのでご注意ください。

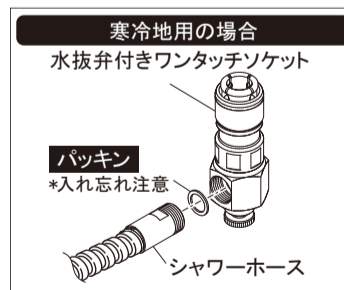


- クリップが正しい位置に取付けられていないと通水時に給水・給湯ホースが抜け、漏水を起こす恐れがあります。図を参考に、確実に取付けられているかご確認ください。
- 給水・給湯ホースの曲げ半径は、60ミリ以上確保してください。急激に曲げると、ホースがつぶれて通水経路を狭め、十分な吐水量を得られない場合があります。



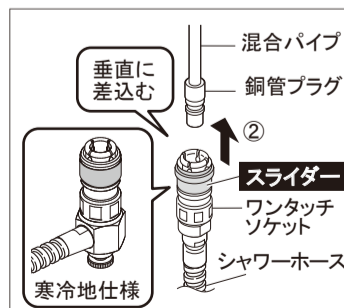
- 禁止
- 給水・給湯ホースは根元から急激に曲げないでください。ホースに傷が付き強度が失われる場合や、ホースがつぶれて通水経路が狭まり十分な吐水量を得られない場合があります。また、漏水を起こす恐れがあります。
- 注意
- 給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

3. シャワーホースを取付けます。



- ①寒冷地用の場合は、先にシャワーホースと水抜弁付きワンタッチソケットをつなぎます。
*一般地用の場合は、シャワーホースとワンタッチソケットがあらかじめ組付けられています。

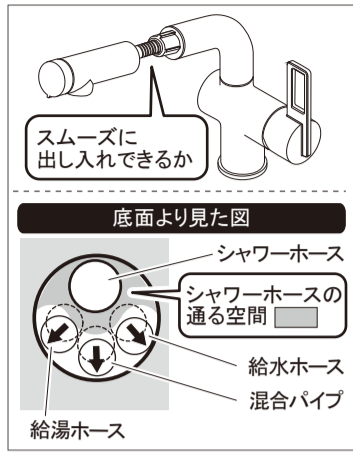
- 注意
- パッキンの入れ忘れにご注意ください。漏水の原因となります。



- ②ワンタッチソケットのスライダーを下げている状態で、銅管プラグに音が出る(スライダーが自動的に上がる)まで垂直に差込みます。
*ワンタッチソケットを外すときは、スライダーを下げながら下方に引っ張ります。
- ③ワンタッチソケットを下方に引き、確実に接続されているか確認します。

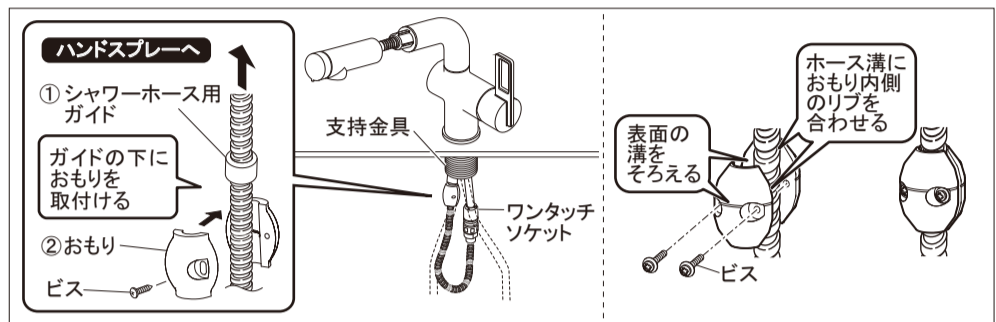
- 必ず実行
- ワンタッチソケットの接続が十分でないで漏水する恐れがあります。図を参考に、確実に取付けられているかご確認ください。
- スライダーが「カチッ」と上がるとロック

3. シャワーホースを取付けます。(つづき)



④ハンドスプレーを引き出し、シャワーホースに引っ掛かりなどがなく、スムーズに出し入れができるか確認します。
 *ハンドスプレーがスムーズに出し入れできないときは、左図を参考にシャワーホースの通る空間を確認します。
 *給水・給湯ホース、混合パイプがシャワーホースを押さえ込まないように、空間を確保できるように調整してください。
 *銅管部は、根元から急激に曲げないように注意して調整してください。

4. おもりを取付けます。

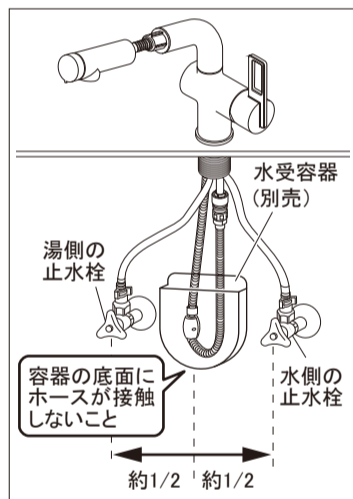


①シャワーホース用ガイドが自由に動くか確認します。
 *シャワーホース用ガイドは、ハンドスプレーを引出したときに、おもりが給水・給湯ホース、混合パイプに干渉するのを防ぐための部品です。
 *シャワーホース用ガイドがテープで仮止めされている場合は外してください。
 ②シャワーホースの引き出す長さを決め、ストッパーになる位置におもりを取付けます。
 *シャワーホース用ガイドの下におもりを取付けてください。
 *最大に引き出したときに、水栓本体の支持金具にシャワーホースガイドが当たる位置に取付けてください。
 *ホース溝におもり内側のリブを合わせ、「プラスドライバー」などでビスを締付け固定してください。

必ず実行

- シャワーホース用ガイド、おもりの順序を間違えないように取付けてください。
- おもりが配管と干渉するときは、配管の位置を調節してください。
- ハンドスプレーを最大に引き出したとき、ストッパーがきいているか、混合パイプ、シャワーホースの根元に無理な力がかかっていないかご確認ください。ストッパーがきいていないと、混合パイプ、シャワーホースに無理な力がかかり漏水を起こす恐れがあります。

5. 水受容器を取付けます。



水受容器(4345:別売)を設置します。
 *ハンドスプレーを何度か出し入れし、水受容器内にシャワーホースがいつでも収納されるかご確認ください。

必ず実行

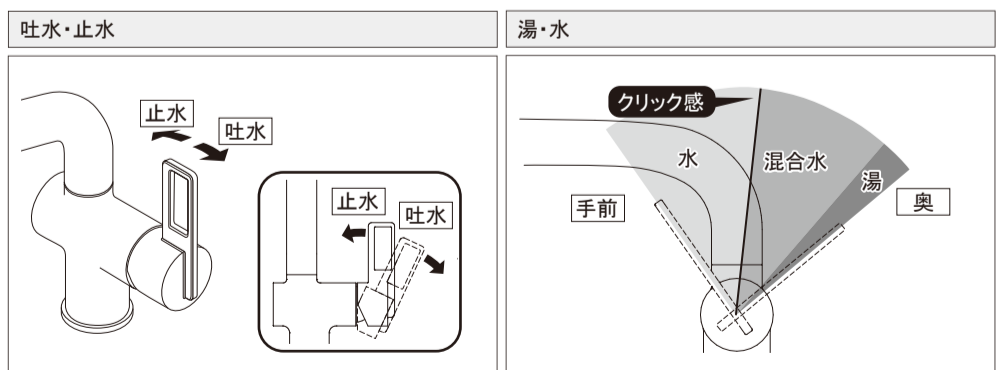
- 水滴がシャワーホースを伝わって床に落ちる場合がありますので、水受容器を必ず設置してください。
- 水受容器は湯水の止水栓の間(水栓本体の真下)に設置してください。
- シャワーホースが収納されないときは、おもり(ホースストッパー)の位置、給湯・給水・混合パイプの曲げ方向で調節してください。

施工後の確認

①止水栓または元栓を開き、各部に漏水がないか確認します。漏水が発見された場合は、止水栓または元栓を閉じ、漏水する箇所を施工し直してください。
 ②ハンドルを操作して、湯水の混合具合および吐水状態を確認します。適量・適温で吐水しない場合は、こんな時には… 簡単な点検と対処 を参考に調整してください。

使用方法

ハンドルの操作方法



ハンドルを傾けると「吐水」、立てると「止水」します。

ハンドルを開いた状態で手前から中心部までは「水」が出ます。さらに奥側にまわすと次第に「湯」が始めます。
 *水・混合水の切替時、クリック感があります。

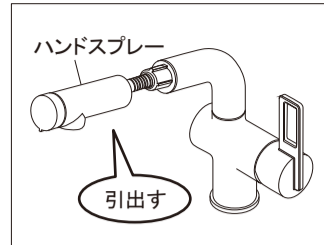
必ず実行

- 湯をご使用時は、最初は必ず水から出してください。その後ゆっくり湯側へ開き、お好みの温度に調節してください。ハンドルを湯側から先に開くと高温の湯が出てやけどをする恐れがあります。
- ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉じると配管に衝撃が加わり、配管から漏水を起こし、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

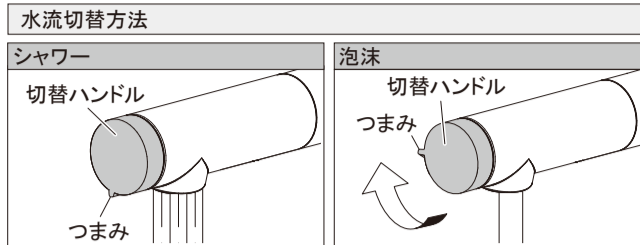
注意

ハンドルを操作する際は、ハンドルと水栓本体の間に手指等をはさまないようにご注意ください。

ハンドスプレーの使用方法



ハンドスプレーを水栓本体から引出して使用できます。



切替ハンドルのつまみ部分を下にすると「シャワー」、時計回りにまわすと「泡沫」に切替わります。

凍結防止方法

一般地用をご使用の場合

水栓周囲の温度が0°C以下になり凍結の恐れがある場合は、下記の方法で凍結を予防できる場合があります。

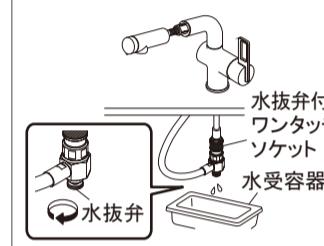


- 配管を保温する。
- 水栓から水を少量出しておく。(目安:1分間に200ml程度)
- 外気が入らないよう窓等を閉める。

*凍結により破損した場合は、保証期間内でも無償修理の対象外となります。

寒冷地用をご使用の場合

凍結の恐れがある場合は、使用後に下記の方法で水抜きをしてください。



- ①配管の水抜き栓を操作して、水が出ないようにします。
- ②ハンドルを中央位置で開き、吐水状態にします。
- ③ワンタッチソケット部の水抜き栓を開き、水栓本体内の水を抜きます。
- ④ハンドルを湯側・水側の順に、それぞれ全開にして水を抜きます。

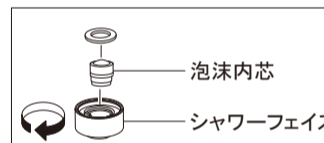
*水抜き後は必ずゆるめた箇所を元に戻してください。
 *水栓に解氷機は絶対に使用しないでください。

注意

水抜きの際は、水栓本体等が熱くなっている場合や、高温の湯が出る恐れがありますのでご注意ください。やけどの恐れがあります。

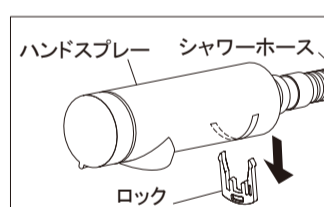
お手入れ方法

泡沫内芯のお掃除



ご使用開始時に比べて著しく水の出が悪くなった場合は、吐水口先端の泡沫内芯を取外し、ゴミなどの異物を水洗いして取除いてください。

ストレーナーのお掃除



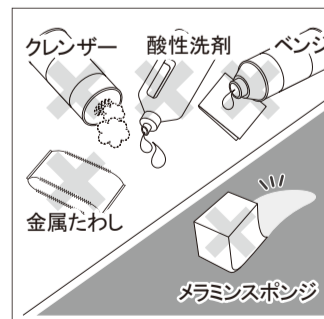
①ハンドスプレーを取出し、ロックリングを外します。

②ハンドスプレーとシャワーホースの間にあるストレーナーを取外します。

③ストレーナーの網目に付いたゴミなどの異物を、水洗いして取除きます。

④①～②の逆の手順で元に戻します。

器具のお手入れ いつまでも美しくご使用いただくために



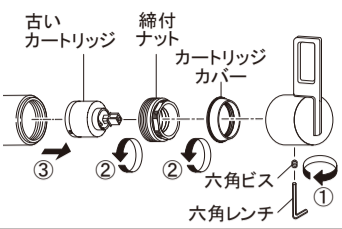
- 水栓器具の金属部
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいてください。
- 水栓器具の樹脂部・塗装面
乾いたやわらかい布でお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いたやわらかい布で水気を拭き取ってください。

注意

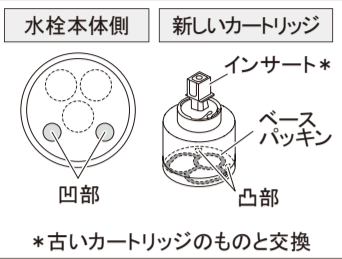
金属たわし、クレンザー・みがき粉等粒子の粗い洗剤、酸性・アルカリ性・塩素系洗剤、ベンジン、油やアルコール等は、本品を傷めますので使用しないでください。また、塗装面や印字部等にメラミンスポンジを使用しないでください。

カートリッジの交換方法

作業前に、必ず止水栓または元栓を閉じて止水してください。



- ①「六角レンチ(対辺2.5ミリ・同梱)」で六角ビスをゆるめ、ハンドルを取外します。
*六角ビスはなくさないようご注意ください。
- ②カートリッジカバー・締付ナットを反時計回りにまわして順に取外します。
- ③古いカートリッジを抜き取りインサートを取外します。



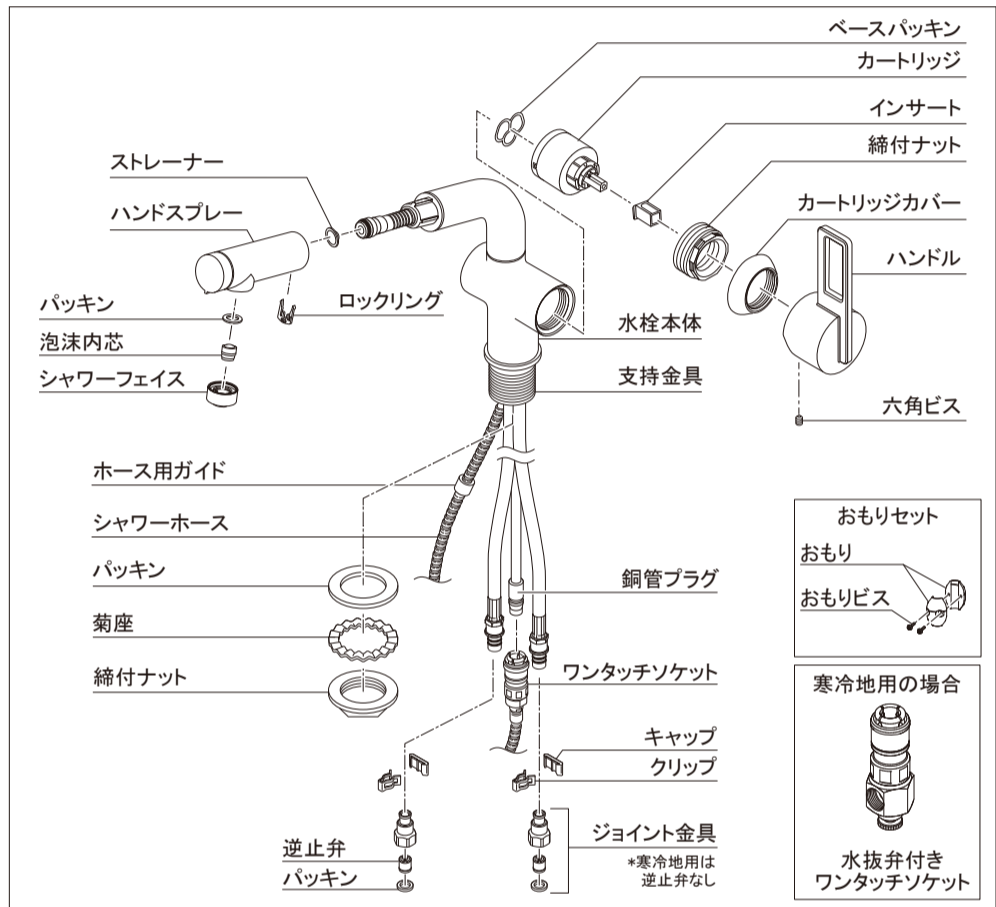
- ④新しいカートリッジのインサートを取外し、③で取外したインサートを新しいカートリッジに取付けます。
- ⑤①～②の逆の手順で組直します。

注意

- ハンドル内にインサートが残っている場合は、インサートを取外してください。
- カートリッジ底にベースパッキンが付いていることをご確認ください。
- カートリッジ底の凸部を水栓本体の凹部に合わせてください。
- 締付ナットは適度な力で締付けてください。(締付けすぎるとハンドルが操作しづらくなります。)

作業後は、必ず止水栓または元栓を開いて通水し、漏水がないことをご確認ください。

分解図



*図は代表品番です。品番によっては図と製品の形状が一部異なります。
*製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

こんな時には… 簡単な点検と対処

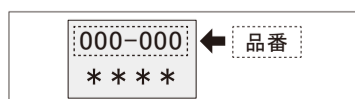
機能が正常に動かない時は、修理を依頼される前に、**分解図**を参考に下記の要領で点検してください。

現象	原因	対処
温度調整不良	高温しか出ない	水側の止水栓が閉じている 止水栓を調節する 給水圧より給湯圧の方が高い 止水栓を調節する
	低温しか出ない	湯側の止水栓が閉じている 湯側の止水栓を調節する 給湯圧より給水圧の方が高い 水側の止水栓を調節する 給湯機の能力(給湯機の異常) 別紙「安全上のご注意」の【使用条件】をご参照ください。
吐水不良	吐水量が少ない	止水栓または元栓を閉じている 止水栓または元栓を調節する 泡沫内芯の目詰まり 泡沫内芯を掃除する ストレーナーの目詰まり ストレーナーを掃除する
	全く吐水しない	止水栓または元栓が閉じている 適正水量になるまで止水栓または元栓を開く
止水不良	止水できない	カートリッジの異常 カートリッジを交換する
動作不良	ハンドル根元から漏水	締付ナットのゆるみ 締付ナットを締める カートリッジの異常 カートリッジを交換する
	ハンドルがガタつく	六角ビスのゆるみ 六角ビスを締直す
動作不良	ハンドルがゆがたい	締付ナットの締めすぎ 締付ナットを締直す カートリッジの異常 カートリッジを交換する

以上の点検を行っても正常に作動しない場合は、お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせください。

分解禁止 本体内蔵のカートリッジや部品等は、絶対に分解しないでください。故障の原因となります。

修理を依頼される前に



お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせいただく際、水栓本体にシールが貼付けられている場合は、そちらで品番をご確認ください。



本社 〒550-0012 大阪市西区立売堀1-4-4 ☎(06)6538-1124

東京 ☎(03)3552-0981 名古屋 ☎(052)504-1551 大阪 ☎(06)6730-3391 福岡 ☎(092)611-4611
広島 ☎(082)278-2821 札幌 ☎(011)704-1511 仙台 ☎(022)239-8371

0325GF

M-A2611A

無断転載・複写を禁ず